

平成 28 年度学校評価・関係者評価書

加西市立加西中学校

学校教育目標

「自ら学び続ける、心豊かな生徒の育成」
努力事項
・生徒が自律する学校づくり
・個の願いを大切に作る学級づくり

本年度の重点

- 誰もが「わかる、できる」を実感できる授業づくりと基礎基本の定着
- 互いを認め支え合う仲間づくりと心に響く道徳教育の充実
- 健やかな体の育成と安全・安心な学校づくり
- 教職員の資質向上と協働体制の確立
- 地域や関係機関との連携のもと保護者、地域から信頼される学校づくり

学校評価の方法についての学校関係者評価

- 評価資料として教職員の自己評価や全国学力・学習調査の結果、保護者アンケートなどが準備されており、4段階での評価も適当である。
○学校教育目標のもと、重点項目にそった詳細な評価項目が設定されており、細部にわたる評価がなされている。

総合的な自己評価

- 本年度の重点事項への取組は概ね目標を達成できた。
○授業改善に努め、生徒の「わかる、できる」を意識した取組ができた。
○自分の役割を自覚するとともに仲間と協力する生徒が増加した。さらに生徒の内面理解に努め、生徒や保護者の思いに寄り添う指導のあり方について共通理解を図り、研修を重ねる必要がある。
○生徒の自尊感情を育み、社会的自立に向けた教育活動を実現するため、保護者や地域の声に耳を傾けるとともに教師力の向上に取り組む。

総合的な学校関係者評価

- 学校教育目標を意識しながら、授業改善、豊かな心の育成、仲間づくり等に取り組んでいる。
○ ICT 機器の導入など、誰もが「わかる、できる」授業を目指した取組みは充実している。研究の継続を期待したい。
○教職員は目標をもってよく努力している。保護者や地域への情報発信をさらに充実させ、学校・家庭・地域が連携した教育活動を推進してほしい。

学校自己評価結果 A・・・よくできた B・・・できた C・・・あまりできなかった D・・・できなかった

評価項目ごとの学校関係者評価

分野	評価項目・取組内容	評価	学校の取り組み状況 (○)・改善の方策 (□)	自己評価結果及び改善方策の評価
1 個に 応じた 学習 指導と 基礎 基本の 定着	自ら学び、自ら考える力の育成 - 指導内容、指導方法の工夫改善 - 体験的・問題解決的な学習の時間の工夫 - 節度ある学習の場づくりの推進 - 言語活動の充実に向けた研究の推進 基礎基本の定着と個に応じた学習指導の徹底 - 指導方法の工夫改善 - 評価方法の創意工夫 - 教科会における学習指導の推進 総合的な学習の時間 - 全体計画のもとに各教科との関連を図った指導の展開	B	○教師の「相互授業参観」が刺激となり、授業改善に取り組むことができた。 ○各教科の特性を生かしつつ ICT 機器の活用や体験的な学習を取り入れ、誰もが「わかる・できる」を目標においた指導を心がけた。 ○言語活動を取り入れた授業の展開を図ったが、生徒の思考力・表現力の育成には一層の工夫が必要である。 ○少人数授業や学年を複数人で担当している教師間の連携を図り、きめ細かな指導が実施できた。 □授業形態や展開、教室環境の整備など、生徒の集中を持続させる工夫が必要である。 □学ぶ意義や価値を考えさせることで、キャリアプランニング能力を育成していく必要がある。	評価できる - 学習指導要領に対応し、基礎基本の定着に加え、思考力・判断力・表現力等の育成に取り組んでいる。 - 今年度の研究に自信をもってさらに研究を進め、主体的に学ぶ生徒を育成してもらいたい。 - 相互授業参観の等の取組を継続して授業改善と教師力の向上に努めてもらいたい。 - ICT 機器の利活用を進め、生徒の興味関心を高めてもらいたい。

分野	評価項目	評価	学校の取り組み状況（○）・改善の方策（□）	自己評価結果及び改善方策の評価
2 心に響く道徳教育の充実と許さない仲間づくり	道徳教育の推進 ・全教育活動における道徳性の育成 ・道徳の時間の指導の工夫 人権教育 ・人権教育推進体制の整備充実 ・人権尊重の精神の育成 生徒指導 ・生徒の自主自立の精神を育む指導の工夫 ・生徒の内面理解を図る指導の工夫 ・生徒指導方針の確立 特別活動 ・学年にあった学級指導を進める ・生徒の手による生徒中心の学校づくり	B	○道徳資料の精選や授業づくりにおいて、学年教師の意見交換が活発になった。 ○学年で道徳授業のローテーションを組み、互いに授業を参観し、授業改善を目指した。 ○いじめを含む問題行動の早期発見・早期対応を心がけるとともに、生徒理解に努め、保護者との連携を図った。 ○ＳＣと連携し、生徒の内面理解に努めた。しかし、不登校生への関わり等、思春期の生徒の指導をさらに研究する必要がある。 ○生徒会活動や学年活動等、生徒を主体とした活動を実現させ、生徒の自尊感情を高め、自主性や自浄力育成を図った。 □学校教育目標を意識し、目指す生徒像について教師間の共通理解を深め、変化する社会に対応する力を養う。 □道徳の授業や特別活動のさらなる充実を目指し、年間指導計画の改善に努める。 □自分の生き方について教育活動全体を通して深く考えさせ、自立した人づくりを目指す。	概ね評価できる ・豊かな心を育成するために、道徳的な実践意欲、心情、判断力等を養う必要がある。学年全体で道徳教育に取り組む姿勢は大切である。 ・教師間の連携を深め、また生徒間の繋がりを深めることで、いじめを許さない学校づくりに努めてほしい。 ・増加傾向にある不登校生対策が大きな課題である。 ・生徒会を中心とした学校づくりを進め、生徒の主体性を伸ばしてほしい。 ・SNS の利用する生徒が増え、トラブルに巻き込まれる危険性が高まっている。学校・家庭・地域が連携して取り組む必要がある。
3 体力レベルに合った運動処方の実践	体育スポーツ活動 ・自己の体力レベルに応じた運動処方の定着化 ・自己の健康管理能力の育成 部活動 ・生徒の心身の健康保持増進と成就感の体得	A	○体育の授業や部活動、体育的行事において、個に応じた指導のもと、個の能力を最大限に発揮させ、自尊感情を高めることができた。 ○保健だよりの発行や、給食の献立や栄養についての放送により、健康維持に必要な情報をわかりやすく生徒に伝えた。 ○部活動を通して、規範意識や礼儀作法を重んじる精神を高め、好ましい人間関係の形成を図った。 □部活動を目標に向かって生徒が意欲的に取り組む活動とするため、学校・家庭生活のバランスを考えた指導を行う。 □新体力テストの結果から体力の弱点箇所の克服を目指し、体力アップを図る。 □歯科・眼科検診の結果を受け、早い段階での矯正や治療の啓発と指導に努める。	評価できる ・体育の授業や部活動指導において、体力や技術の指導だけでなく人格形成を意識した取り組みがなされていることは大いに評価できる。 ・毎日の欠席確認、生徒観察で生徒の健康状況の把握に配慮されている。「保健だよりの」や給食時の放送など健康維持の発信もできている。 ・生徒の体力の実態から、体力向上に取り組んでいる。成果を期待したい。 ・部活動と家庭生活、地域行事への参加等のバランスが大切である。

分野	評価項目	評価	学校の取り組み状況（○）・改善の方策（□）	自己評価結果及び改善方策の評価
4 教職員 の健康 管理と 信頼の 確立	教職員の健康管理 ・教職員の健康増進 教職員の資質向上 ・継続的な研修の実施 ・高い綱紀意識の保持と意欲の向上 職員の協力体制 ・一致協力できる教職員組織	B	○市指定の研究発表に取り組みながら、教職員の授業改善の意識を高めた。 ○研究のための時間確保のため、業務の効率化と協働体制を構築を図った。 ○教育公務員としての使命感や綱紀意識を持って、職務を遂行できている。 □職務内容をさらに厳選し効率化することで、勤務時間の適正化を推進し、生徒と向き合う時間の確保を図る。 □校務の分担において、負担が集中しないようによる協働作業に努める。 □教職員の資質向上と校務分掌の円滑な接続により、組織をあげての学校運営に努める。	概ね評価できる ・職員のコンプライアンス意識を高め学校の信頼を維持してもらいたい。 ・市指定の研究で進めた授業改善を継続することが大切である。 ・生徒理解を進めるとともに、保護者や関係機関と連携した指導をさらに充実させる必要がある。 ・教職員の健康維持に留意願いたい。
5 安全・ 安心の 学校づ くりと 開かれ た学校 づくり	開かれた学校づくり ・家庭や地域の人々への情報発信 ・生徒の地域行事等への参画促進 ・地域の人々と語りあう場の充実 危機管理体制の整備 ・実効性のある学校危機管理マニュアルの策定 ・家庭地域及び関係諸機関と連携した危機管理体制の推進 防災・安全教育 ・防災教育の推進と教員の指導力・実践力の向上 ・交通事故の防止や不審者対策など安全対策を徹底	B	○定期的な学年・学級通信の発行や、懇談会やオープンスクール等で学校の教育活動の方針や内容を家庭や地域に伝えることができた。 ○美バースデー等の活動に参加はしているが、地域行事に参加できていない。 ○交通安全に関する指導は実施しているものの、登下校の態度が充分ではない。 □交通ルールとマナーの重要性を生徒に指導し続け、保護者・地域の方々の支援を要請する。 □不審者の情報が増加傾向にあるため、定期的な登下校指導と地域との連携を深めることで生徒の安全を確保する。 □生徒の危険回避能力を一層高めるとともに、自然災害発生時に備え、より実効性のある避難訓練を実施する。	概ね評価できる ・学年通信で行事予定等が、学級通信で生徒の様子等が発信されている。HPの充実も図られている。 ・危機管理意識を持ち続け、生徒の安全・安心を維持してほしい。 ・交通マナーが悪い生徒がいることは事実であるが、ほとんどの生徒は安全を心がけて登下校できている。 ・10月の地震発生時に落ち着いた対応ができたのは、訓練のたまものである。
その 他の 課題 教育	進路指導 ・主体的な進路選択能力の育成 ・職業・勤労観の育成と計画的な進路指導 トライやる・ウィーク等体験活動の充実 ・家庭・地域との連携、生徒の意識やコミュニケーション能力を高める指導の工夫 環境整備 ・校内環境の整備	A	○事業ボランティアの方々の尽力により、生徒たちは好ましい勤労観や職業観を身に付け、将来を真剣に考える機会となった。 ○「礼儀作法講座」や事業所訪問を通して、社会に通用するコミュニケーション能力を習得するための一助となった。 □「なぜ学ぶのか。なぜ働くのか。」という原点に立ち返ってのキャリア教育を推進する。 □地域行事への参画を促し、人と人とのつながりを意識させ、郷土意識の醸成を図りたい。 □安全性を重要視し、整頓された校内環境を実現していく。	・高校進学に対応した進路指導から、将来の職業や生き方までを意識したキャリア教育へと発展させることは評価できる。 ・トライやる・ウィークは生徒の視野を広める良い機会である。生徒の意識を高めて取り組んでほしい。 ・校舎は古いが、整理整頓されている。破損箇所等は速やかに修繕し、生活しやすい環境を維持してほしい。